

---

## 原子力市民委員会

### 「自主的公聴会」開催の報告

---

■ 「川内原発再稼働についての自主的公聴会 in 薩摩川内市」

日 時：2014年5月31日（土）13:30～16:30

会 場：川内まごころ文学館 多目的映像ホール

■ 「高浜原発再稼働についての自主的公聴会 in 福井県小浜市」

日 時：2015年2月1日（日）13:00～16:00

会 場：小浜市勤労福祉会館 3階大ホール

内容：

「川内原発再稼働についての自主的公聴会 in 薩摩川内市」開催報告・・・・・・・・・・ 1

「川内原発再稼働についての自主的公聴会 in 薩摩川内市」当日寄せられたご意見・・・・ 2

「高浜原発再稼働についての自主的公聴会 in 福井県小浜市」開催報告・・・・・・・・・・ 8

「高浜原発再稼働についての自主的公聴会 in 福井県小浜市」当日寄せられたご意見・・・・ 10



本件に関する連絡先：原子力市民委員会事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-21 戸田ビル 4F（高木仁三郎市民科学基金内）

E-MAIL：email@ccnejapan.com TEL/FAX：03-3358-7064



# 「川内原発再稼働についての自主的公聴会 in 薩摩川内市」開催報告

2014年6月9日（火）原子力市民委員会事務局

九州電力川内原子力発電所の再稼働への優先審査が行われている中で、原子力規制委員会や鹿児島県、立地・周辺自治体は、わずかながら避難計画や適合性審査に関する説明会を開催することは約束しているものの、立地・周辺自治体の住民の意見、および再稼働に慎重な立場の専門家の意見を十分に聞きながら意思決定をするというプロセスは十分ではないと考えられます。そのため、原子力市民委員会は、「自主的公聴会」として、薩摩川内市および周辺の自治体の方々から、川内原発再稼働について幅広いご意見をお寄せいただく場を設けることとしました。

地元・周辺自治体の議員、マスメディア、市民団体、生活協同組合、農漁協団体、商工業団体などを中心に、再稼働への賛否、専門知識の有無などは問わず、率直なご意見をお寄せいただくよう呼びかけたところ、100名を超える皆様にご参加いただくことができました。地元メディアの関心も高く、新聞社・テレビ局をはじめとした多くのメディアが取材に訪れました。

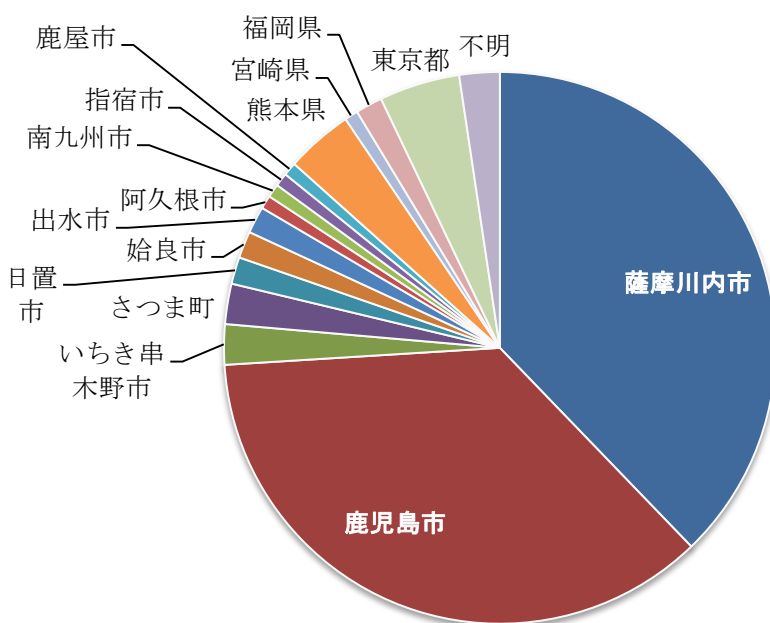
- 日 時：2014年5月31日（土）13:30～16:30
- 会 場：川内まごころ文学館 多目的映像ホール
- 主 催：原子力市民委員会
- 原子力市民委員会からの報告者：
  - 吉岡斉さん、荒木田岳さん、
  - 満田夏花さん、滝谷紘一さん
- 現地からの報告者：
  - 鳥原良子さん（川内原発建設反対連絡協議会）
  - 杉原洋さん（反原発かごしまネット）



- 当日の参加者：
 

（受付記録による。原子力市民委員会報告者・事務局を除く。）

地域	人数
薩摩川内市	48
鹿児島市	46
いちき串木野市	3
さつま町	3
日置市	2
始良市	2
出水市	2
阿久根市	1
南九州市	1
指宿市	1
鹿屋市	1
熊本県	5
宮崎県	1
福岡県	2
東京都	6
不明	3
合計	127



- 口頭での意見発表された方・・・8名
- 提出いただいた『ご意見・ご質問用紙』『アンケート用紙』の数・・・54枚
 

（一人の方がそれぞれ『ご意見・ご質問用紙』『アンケート用紙』を提出したものを含む）
- 事前に FAX にてお送りいただいたご意見の数・・・2枚

# 「川内原発再稼働についての自主的公聴会 in 薩摩川内市」にて寄せられたご意見

(事前に FAX にていただいたご意見 2 件を含む。順不同。)

まとめ：原子力市民委員会事務局

## 主に再稼働の是非に関するもの

- 入居の障害者、入居の老人、入院中の人々など、弱い人々の避難計画もなしに再稼働はありえない。
- どんな上手に考えても想定外のことが起こる。(ドイツの倫理委員会も同じ考え) 川内原発が爆発したら私は鹿児島市の坂之上に住めなくなる。家庭菜園に作った野菜が食べられない。
- ◎原発は絶対ないとだめなのか? ◎逃げるくらいなら、そもそも原発がない方がよいのでは? ◎確実に命はなくなる。それより、命を育むエネルギーの開発を鹿児島から!!
- 福島の事故後、電力会社や国が福島の各自治体に様々な責任を押し付けていると感じる。「被害自治体になりうる」とあらゆる自治体やその住民が意識をもってこの国から原発をなくしていくことが必要。
- 核のごみが増えていく再稼働は反対。川内市民は再稼働側にだまされていると思う。再稼働しなければ働く場所がないと思っているが、脱原発にしてもずっと働く場所がある。都合のいいことばかり言う再稼働推進派は原発のこわさを知らない。どうしたら知ってもらえるか。
- 福島原発事故原因がわからないままに再稼働に走る自民党の本質は国民の命なり電力会社及びそれに群がる企業を守ることをだけを考えている。憲法には主権在民となっておりおかしい。福島原発事故原因もわからないままに原発再稼働は絶対に許せない。既に事故により科学はもう破壊されたと思う。事故の反省の元、それを活かす日本になるため努力すべきだと思う。
- ”福島” が起こってから原発の安全神話は完全に崩壊したのにも関わらず、再稼働へ動こうとしている理由がわからない。日本は良いことも悪いこともすべてテレビなどできちんと報道されていると信じていた自分が残念でならない。操作されていることを知った。
- 新聞を見ると、毎日、原発事故時の避難計画の事が出ている。そこまでして、原発を動かす理由が、どこにあるのか? チェルノブイリを見ても、福島の事故を見ても、取り返しのつかない重大事故(他の発電では考えられない程の)が起きるのは目に見えている。事故がなくても、核廃棄物の保管・管理を何万年もしていたら、天文学的数字のお金がかかる。何の役にも立たない物に対して、お金をかけ、自然を壊しつつけている。使用済み核燃料プールも、3.11 事故がなければ、今ごろ全国満杯。自然エネルギーは、無限大、無期限、環境負荷がない。電力会社も、自然エネルギーへ転換していくべき。
- 福島原発事故を見れば、だれしも再稼働なんて考えられないと思うのが自然の流れ。しかし、電力会社と政治家、そしてマスコミを利用し、原発がなければ今にも経済が破綻するごとく宣伝し、国民をだます行為は許せない。福島原発の原因すらはっきりしないのに、原発の絶対安全性も確認することなく規制委員会を使って再稼働させるなんて全く許せない。人格権をおかされる行為であり、現実的に福島の原発は今なお放射能を出し続けている。自民党の全員、福島原発 5km 圏内に住んで、あの発言をしてもらいたい。日本は、地震国であり、本来原発をつくるべきでなかった。しかし作ってしまった。原発事故を経験し、今、本当に自然にかえる事を考えない限り、この国は滅びる。国民の一人一人がしっかりしなければと思う。今こそ自然エネルギーへの転換をはかるべき。電力会社を複数作り、原発をストップさせる政策はとれないものか。四季があり、自然が素晴らしい日本が再生するため、原発即廃炉と考える。
- 原発は人類と共存できないので絶対に再稼働させてはならないと思う。
- 改めて規制基準を口実に再稼働させようという政府、財界の意図が分った。
- 大騒ぎして、避難をするようなエネルギーを未だ推進するのか? 基本的に避難をしなければならないエネルギーとは手を切るべき。知事や市長の能力不足、勉強不足に立腹している。
- 再稼働には反対。もし強行するのであれば、●現在の県民の被ばくデータを基礎データとして集めておくこと(健康診断) ●全県全員に線量計を交付すること ●災害時に正しい情報がすべての人に適切に伝わる情報の伝達方法を構築すること(他所からたまたま来ている人も可能なように) ●避

避難計画はもちろん避難後の生活について阪神大震災や東日本大震災で女性が DV にあったり、ついでのない広間で着替えや、睡眠の困難さなど、問題の解消が必要。

- 放射線被ばくの元凶である原発は、人道上にあってはならない。その犠牲者の上に私達の電気を使う生活があることが後ろめたい。再稼働はもちろん新規につくことも止めて、今ある原発は廃炉にすべし。福島原発事故を通じて原発（事故）は家族の絆、地域とのつながりをずたずたに分断してしまうのだということを痛感させられた。
- 絶対に反対。住民の意識が低いのがとても気がかり。
- 川内でひとたび事故が起きれば、逃げ道はない。日本全体再生不可能、世界に迷惑をかけてしまう。地元商店街等が原発停止で迷惑被っていると話すが、一旦逃げたら一生戻ってこれず、財産を捨てなければならない。国民の生命と財産を守ることより再稼働が大切なのか。リスクを犯してまで必要なことなのか。過去の歴史からも国民は国家にマインドコントロールされだまされ続けている（戦争、福島での事故）。現在も（増税、憲法改正）。だまされて泣き寝入りするのは国民。再稼働は反対。
- 反対。鹿児島川内九電だけでどうこうするのは難しいだろうが、原発なしで CO2 を押さえた電力の確保をめざし、180° 考えをかえた計画を立てられないのか？
- 絶対反対！！福島のことが解決していないのに！！稼働すればこそゴミが出続け、最終処分の方法がないことを考えても無理。これまでの分は、引き受けるしかないが、未来にできるだけ負担を残してはならないと思う。老親（認知症有、歩行困難）をどうやって避難させればいいのか？個人の責任なのか？無理！
- まず第一に福島の事例を参照にすべき。
- 全く合理性を欠くものと思う。発電コストだけ考えてもトータルで巨額のマイナス収支を未来の世代に先送りするものだが、リスク管理にしても廃棄物処理にしても杜撰そのもので、いつどこで取返しのつかない損害を被るかわかったものではない。
- 絶対反対。命と原発どちらを優先するのか。まず、事故の原因が解明していない中での再稼働は、福島と同じ惨事を招くことになる。原発がなくても電力は足りるし、自然エネルギーにシフトすることで新たな事業、雇用の創出につながる。原発にすがりつくのは一部の人だけであって、国民はおいてけぼり。そんなことが許されるはずがない。次の世代の子たちのためにも、この負の連鎖は断ち切らなければならない。
- 絶対反対。規制委も「安全を審査するものではない」と言っている訳で、安全は全く保証されていない。そんなものを地震国、火山国の日本で動かすなんて、許せない。
- 絶対反対。福島の原発事故の原因究明もされていないし、又、処理も全くと言っていい程片付いていない。ゴミの問題も読み残したまま…。子孫への多大な負担、今後出現するであろう放射能による健康被害を考えると、とても原発には展望は持てない。六ヶ所村に変換された核のゴミ（処理済み）の1本の経費が一億数千万と聞いて、よけいに腹立たしくなり、反対の意思を強くした。
- 電気を作る一方法にすぎない原発はあまりにもリスク高すぎ。地元の商工会は再稼働、原発推進に大変積極的だが原発は毒まんじゅう、まさに麻薬と同じ。地方景気に見通しのできる脱原発の道しるべが大事。
- 福島の原因も明らかにされていないし、又、収束にもほど遠いなか再稼働なんてとんでもない。現に原発動いていない今、電力は足りているし、原発以外のエネルギーで充分やっていけるしまだまだ余地はある。
- 再稼働反対。川内市民、鹿児島県民、原発のこわさを本当に分かっているのか。
- 絶対反対。
- 再稼働には絶対反対。身障者の私は酸素吸入しなければ生命を維持できない身体で、電源、酸素ボンベが24時間必要。避難できる条件が複雑で今の市の計画では到底受け入れられない。
- 絶対に再稼働させてはいけない。福島原発事故の事実やその他のことから考えて川内原発の安全性が確認されることはない。
- 「避難計画」は机上の空論にしか思えない。廃炉計画を要求すべきではないか。廃炉すると電力会

社は本当に赤字決算となるのか。疑問なことが多い。

- 条件次第ではないか？産業、工業、商業他日本の経済発展には絶対必要と思う。

## 主に避難や避難計画に関するもの

- 原発再稼働は絶対に反対。避難が必要な物はいらない。原発ゼロで今ある使用済核燃料の処分について考えてほしい。避難計画についても指定された道順で行ってきた。私の所は金峰町文化センターだったが、目の障害のある身でとてもむりだと感じたので避難はしない。
- 避難計画は①原発内②地震と津波(③直下型を含む)の複合的要因と気象条件、時間帯により 180° 変わってくるのでは？今の計画では？
- 事故発生から何時間後に避難指示は出るのか？電源が切断されたら、モニタリングポスト等も機能不能になると思う。最後は自分の命は自分で守るしかないのでは？
- そもそも事故直後に正しい情報を瞬時に住民にも伝えるということを法律に明記してもらわないと逃げる覚悟ができないのでは？混乱をおこすから、どうのこうの言って遅くなると疑っている。
- 避難等 1 人 1 人の意思の尊重というのはわかるが、ヒバクを最小限にするためには、十分な危険性の説明が被災者をはじめ、国民になされるべき。(物流規制がいい加減) →二次ヒバクを防ぐてだてがない。
- 事故があった時の事実の隠ぺいと、分断が予想される。
- 台風避難の場合、中心校が避難しないと避難しない。
- 避難計画も立てないより立てたほうが良いけど、避難訓練もしないよりした方がよいが、パーフェクトな避難はドダイ無理。経費も嵩むだけ。これを条件に規制委員会が原発の再稼働を認めたら困る。一番の防災は原発を廃炉にし、新たには作らないこと。そうして原発以外での発電技術の研究に専念して欲しい。
- 再稼働は絶対反対。肺炎(間質性肺炎)の私は 24 時間、酸素吸入しなければ生きられない身体。酸素濃縮機を自宅に設置し電源が必要。外出時はボンベ(約 8 時間)を持って歩く生活をしている。避難等は考えられない。
- 避難計画より EAL の対応(真実か?)が重要だと思う。
- いかなる避難マニュアルを作っても、それは想定内でのマニュアルである。なぜ事故は起きるのか、想定外が起こるからである。例えは好ましくないが、トイレ臭をなくすにはトイレをなくせばよい。原発事故を心配しなくなかったら、原発をなくするのが最善最良の策である。万一、事故が起こり避難する時、私は鬼となり行動するだろう。助け合う？キズナ？冗談じゃない!!
- UPZ の避難開始がモニタリングポスト空間線量 500 $\mu$ Sv/h という県の避難計画は適当か。報道によると市町別避難時間等のシミュレーションは、県ではなく市町が独自ですべきものと県知事は言ったとの事。県の甘い再稼働への前のめり姿勢が度のシミュレーションや指導などで、住民も市町自体も大変困り、非常に不完全な計画しか作られていない。
- 子供達のことを考えてほしい。“避難”なんて絶対無理。風向きなんてちょくちょく変わる。再稼働なんて福島の皆さんをバカにし行為に他ならないと思っている。
- 一昨日、日置市の避難計画説明会に行ってきた。すべてが検討課題だという話だった。県と市の方々は「市民の命を守ることが目的なので協力下さい」と同じセリフを繰り返されていたが、不安は募るばかり。「検討をしたことをまた知らせて下さい。」(説明会の開催など)と伝えたが、「予定はない」と言われた。何を守りたいのか。捨てられてるな〜と感じる。

## 主に新規制基準や適合性審査に関するもの

- 九電の過酷事故の想定で、たとえば水棺が水モレ等でできない可能性は検討されているのか？デブリの取り出しまで、いかに冷却し続けるのか、汚染水をどうするのか、環境汚染等損害の見積もりはどうか？(福島県も)熊本にも聞こうと思う。
- 規制基準と安全基準について混同しやすいので整理が必要では。

- 空（航空機）、バクダン等、現委員会は考慮しているか？
- 基準地震動について、鹿児島県北西部では 1997 年 3 月と 5 月に、900 ガルを越える地震があった。震央は川内原発から 20km 以内の所だ。南海地震でマグニチュード 9 程度の地震が起きたら、川内原発周辺の断層が影響を受けると考える。620 ガルの基準地震動の設定には疑問を感じる。
- プルームについて、空に戸（防護壁）は立てられないという簡単なことが分らないのか、ムシしているのか、九電や学者や偽政者推進の人たちの人としての誠意を疑う。科学は何のためにあるのか。
- 県議会の原特委で、九電の副社長が原発の基盤が 620 ガルゆれると格納容器の側面は崩壊すると回答した。その様なことが規定されるのに、新規制基準に適合するか？
- 九電の説明では、ストレス・テストの想定で一貫して蒸気発生器が稼働し続ける（破損しない）となっている。この蒸気発生器により自然対流で原子炉を冷やし続けられると説明していた。今回の審査で規制委から指摘されたのかどうか不明ですが、蒸気発生器や破損も規定すべきではないか？
- 破局的噴火の火砕流（入戸、加久藤、阿多）が川内原発に到達した場合は（使用済核燃料）南九州は住めなくなる。夏井海岸の火砕流堆積物（天然記念物）で実証されている。川内原発の再稼働は反対。
- 「使用済核燃料保管プール」の安全対策に不安あり。(1) 電源確保対策 (2) 便設位置の高さと建屋構造、安全対策の重点が原子炉に偏っているように思うが、核燃料保管プールの安全対策は原子炉本体と同等と考えるがいかがか？
- 巨大噴火等もさることながら、テロや巨大化する災害など、原発（老朽化していく原発）はどう対処するのか？◎屋根（上の部分）はどちらかといえば弱いと聞いたが…。◎使用済の核燃料はずーっと冷やしている限り大丈夫なのか？
- 火山予知学者が規制委員会に不在。質問した学者に直接聞いたが、趣旨が違うという。反対する団体には火山学者がいるのか？
- 1) 基準値電力 620 ガルの虚構。アスペリティ応力降下量最小\*\*。2) 断層評価の不適。3 本や 1 本しか回答なし。下山論文無視。3) 放射能の拡散は、地形の影響大。

## 主に福島第一原発事故に関するもの

- 鹿児島県に 2011 年 3 月に関東から避難してきた人にも健康の影響がみられる。鹿児島県に流通している食品にも汚染が確認されている。その事実を話すと鹿児島にいてさえ「差別者」呼ばわりされる。「安全」を主張して被ばくを心配する県外の人を「差別者」呼ばわりするのではないか。目の前の子どもたちに「放射能安全」とうそを言うようになるのではないだろうか？※自主避難者の入学受入れ拒否が鹿児島市であった。
- 実際、原発事故の当事者になった場合、何が一番大変だったのかのお話をもっと聴かせて頂ければと思う。新聞、雑誌等では目にするが、生の声をもっと聞きたい。
- 福島原発事故の処理（ゴミなど）のために広大な敷地が使われているが、どれだけの面積か。全国の原発のために総計いくらの面積の敷地が必要となるか？
- 「吉田調書」の内容が明らかになれば、新規制基準も見直されるであろうと言われている。政府事故調の仕事だったと認識している。政府事故調のメンバーだったことから、どのような見解をお持ちか？
- 山下氏の存在はどうして許されるのか？
- 福島県内の医師達は、住民の健康障害に対して放射性物質による影響を心配していないのか。また、健康を維持する為に、食生活等に対して助言等しているのか。

## 主に開催した自主公聴会に関するもの

- 荒木田さんのお話（体験）もっと聞きたかった。
- 大変勉強になりました。
- 熱い思いで再稼働を反対する方がこんなにも多いのか〜と改めて知った。国も県もこのような方々

の質問に親切丁寧に答えていくべき。国民、市民を（なめているのか）と思うことがしばしば。

- 公聴会なので Youtube で発信されたらより広く知ることができるのでは。政府、電力会社、行政の無策→人命軽視。腹が立つ。戦後の日本が戦争を反省しなかったことと同じことが、3.11 後も起きている。焼け太りする層がいる。地域の自治体活性化、自然環境を守ることが人にやさしい社会づくり。そのために科学も政治も働いてほしい。●川内原発は、独ではすでに動かさない年数になっているはず。
- フロアーからの質問や意見を十分に吸い上げて下さり、質疑にも精一杯応えて頂いた。行政のやる公聴会こそこうあるべきだと思う。
- 多勢の方々のご意見、お話が伺えて大変勉強になった。
- 今日のような議論がますます活発になり、脱原発につながればと思う。もっと多くの団体が生まれ、しっかり取り組んでいく必要があると思う。自分のこととして考えることが必要。
- 問題点がいくらか理解できた。（学習不足で難しいところもあったので）理解した分だけでも知り合いにも伝えたい。もっと市民に丁寧に県も市も説明すべき。
- 1. 細々にわたり、説明いただき有効。（細部について調査研究を加味した説明）。2. 福島災害を3年間にわたり現状の精査が\*\*。
- 途中から参加したので全容は掴みきれないが、事故直後からしても人々の関心は徐々に高まりつつあるのではないかという印象を受けた。
- 各プレゼンの時間が少し短かった。さまざまな立場の方からのお話をきけて大変よかった。倫理的な話だけでなく科学的に裏付けられた根拠があることをもっと多くの人に知ってほしい。
- 4人の方々が、いろいろな分野から発言し、教えて頂き、とても良かった。川内市で開かれた意味も大きい（会場が狭い位）。知りたかった色々なことを知ることができ、意義あるものだった。広めていきたい。
- 危機感を持っている人が少ないのか、地元川内市の人たちの参加が少ないのが気になった。再稼働してしまった場合、止めるのは難しいのに。自分の生活を守るためにも廻りの人たちと一緒に出来るだけ頑張っ、反対の声をあげ続けていきたいとの思いを強くした。当事者である荒木田さんの生の声を（おはなし）を聞いて良かった。
- 本日の自主的公聴会がインターネットで流れていることを知り、日本の国民がどれだけアクセスするのか鹿児島県人がどれだけ関心を示すのか、その結果どれだけの方が行動しめすのか、良い結果をもたらすとよいが。
- すばらしい先生方のお話を直接聞くことができたことに感謝。もっとたくさんの人たちが、こんな場に参加できたら、原発0は夢ではないと思った。「知らないことは罪である」というある人の言葉が頭をよぎった。もっと声をあげていかなければいけないと思った。
- いろいろな面から研究された結果を資料として示されて専門家の方々から説明を聞くことができ理解を深められた。
- 廃炉するための対策問題点を検討してもよいのでは。企業会計の見直し。使用済核燃料の対策。コンバインドサイクルの火力発電の拡大など。
- 何か説明されていた様子であったが、後方は何を話しているか全く聞き取りにくかった。

## その他原発の問題に関するもの

- 脱原発も必要な時もあるが物理学者が根底より除去する研究はしてないのか？これが研究者に課せられた世界、日本の課題では？
- 原発は本当に CO2 減になるのか？（海水の溶存 CO2 を出すとも聞くが）
- 原発稼働による経費は、福島の賠償、地元自治体への協力金、避難活動費、かくれ易い項目があるのでは？
- 福島原発の実態や技術の未熟を知らないまま原発を輸入しようとしている国々があるが、これに対



してどのような対策がとられているのか。

- 「原発を再稼働するようなムダなことは絶対にしない!!」という民意の形成・合意をつくるチャンスは今だけ! 今やらなくて、いつできるのかと思う。だれかに不幸を押し付けるのではなく、みんなが小さな幸せを分けあえる社会をつくるために、いろいろな方法で脱原発の道を進みたい。
- 核の最終処分場の南大隅町の辺環（へっか）に行ってみた。
- 委員自体が政府の意任者であり、事業者に対して本当に厳しい条件のもと原発ゼロを考え、国家国民のために思って審査しているのか? 元の保安院のように帰るのでは?

## 『脱原子力政策大綱』や原子力市民委員会についてのご意見

- 原子力市民委員会のような委員会を自治体ごとに作って活動することが大事であると思う。
- 私達は、この強い政府の姿勢にどうやって対抗していけるのか? 声をあげろ! まとまって戦え! 具体的に政府を揺さぶるような手段は? 未来の人々の分まで便利さを失わない 100 代先までの生命に美しい地球をバトンタッチしよう!!
- 帰ってからじっくり読んでみます。ありがとうございました。
- これからじっくり読んで勉強したい。
- 絶対安全はないと思う。今日は本当にありがとうございました。
- 量が多く、理解が難しいが、じっくり読んでみたい。市民委員会があること今回はじめて知った。心強い。
- 1. 机上作成に記録が多く、実地に即していない。2. 県、市の首長が「原発ゼロ」について学術的なことも踏まえてゼロ目標を自学してほしい。3. 公聴会を積極的に実施、市民の立場を踏まえる。
- (強いて言えば第一章[1]) 本公聴会での質疑応答を見て、まだまだこれからの組織なのかなという印象を受けた。いずれ政権与党との対話を実現し、そこでのポジティブな結果を広く一般の人々まで届ける役割まで期待しつつ、そのための地盤固めや体力強化を進めていってほしい。なるべく協力したい。
- 大変素晴らしい資料を 500 円という安さで頂いていいものかと悩みました。まだ少ししか目を通しておりませんが、こうした活動ももっと広く、わかりやすく、たくさんの方々に伝えていきたい。
- 原発に代わりうる発電方法としてガスタービン発電はもっと推すべきだと思うが。
- p.110、見落とされがちなウラン鉱山の問題にくぎ付けだった。ウラン残土の放射線量の高い数値のあること、そしてまた現福島第一原発の作業に従事する方々の下請け作業員の被ばくが気になる。
- 本当に大変かと思うが、頑張っって皆をふるい立たせてほしいと思う。
- まだほとんど読んでいないが、関心のある問題について検討しまとめてあるようで、よく読ませていただきたい。

## 「高浜原発再稼働についての自主的公聴会 in 福井県小浜市」開催報告

2015年2月23日（月）原子力市民委員会事務局

原子力規制委員会が、関西電力高浜原子力発電所3・4号機について、設置変更許可申請の審査書を決定する見込みとなっていたことを受け、原子力市民委員会は、2月1日、福井県小浜市で「高浜原発再稼働についての自主的公聴会 in 福井県小浜市」を開催しました。「自主的公聴会」の開催は、昨年5月31日の鹿児島県薩摩川内市での開催に続き、2回目となります。

原子力市民委員会はこれまで、再稼働については、公聴会や公開討論会のような、市民の声を聞く場がしっかりと確保されるべきだとの見解を示してきました。一方で、福井県の西川一誠知事は、川内原発を巡って鹿児島県が主催して開催した住民説明会すら、「県が主催して実施することは考えてはおりません」<sup>1</sup>として、県主催では開催しない方針としています。同様に、立地自治体である高浜町も、住民説明会は開催せず、原子力規制庁に作成の依頼をしているビデオ映像による説明をケーブルテレビで放送するのみとしています。また、原子力規制委員会の側も、説明会や公聴会の開催は「自治体からの要請が前提」として、自ら開催する方針のないことを明言しています。

そのため、原子力市民委員会は、高浜原発の立地・周辺の自治体の方々から、高浜原発再稼働について、幅広いご意見をお寄せいただく場として、小浜市で自主的公聴会を開催しました。

「自主的公聴会」の中では、原子力市民委員会の「見解：高浜原発3・4号機の再稼働は容認できない」<sup>2</sup>を発表しました。

■日 時：2015年2月1日（日）13:00～16:00 （16:00より記者会見）

■会 場：小浜市勤労福祉会館 3階大ホール

■主 催：原子力市民委員会

■原子力市民委員会からの報告：

吉岡 齊『見解：高浜原発3・4号機の再稼働は容認できない』

大島堅一『経済と再稼働問題』

筒井哲郎『高浜原発設置変更許可の技術的問題点』

満田夏花『原子力防災計画および地元同意に関する問題点～川内原発から学ぶ～』

アイリーン・美緒子・スミス『高浜原発をめぐる避難計画の特徴と問題点について』

前半は、原子力市民委員会より高浜原発再稼働についての問題提起の報告を行いました。吉岡斉座長は「見解：高浜原発3・4号機の再稼働は容認できない」の骨子を中心に説明と報告を行ない、筒井哲郎規制部会長が見解の「別紙1：適合性審査が安全を保証しない技術的根拠」に関連する説明、満田夏花座長代理が「別紙2：高浜原発の原子力防災計画および地元同意に関する問題点」に関する説明を行いました。

また、大島堅一座長代理は「経済と再稼働問題」と題し、原子力発電の本来のコストとはいかなるものであるかの説明を行ない、再稼働が行われた場合と行われなかった場合の経済への影響の比較を行いました。原子力市民委員会アドバイザーのアイリーン・美緒子・スミス氏は、「高浜原発をめぐる避難計画の特徴と問題点について」と題し、高浜原発緊急時における自治体の避難計画の具体的な問題点について指摘し、会場からの意見を求めました。

<sup>1</sup> 福井県「知事記者会見の概要（平成26年10月24日（金）」

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kouho/kaiken/kaiken141024.html>

<sup>2</sup> [http://www.ccnejapan.com/20150201\\_CCNE\\_01.pdf](http://www.ccnejapan.com/20150201_CCNE_01.pdf)

後半は、会場から、口頭および意見用紙による意見の表明と、原子力市民委員会のメンバーとのやり取りが行われました。口頭では、「UPZ が 30km 圏にしかっていないのは現実を踏まえていない」、「地元や周辺の自治体や住民が再稼働に反対しきれない理由には、地元の原発依存の経済や雇用関係の問題があるということを考えて欲しい」、「原発ゼロが決定できないのは、国際的な背景があるのではないか。日米原子力協定の改定に対しどういった提案や動きをしていくべきか」といった意見や質問が出されました。また、意見票では、「原子力規制庁・規制委員会の審査に問題が多くあることはよく分かったが、改善をしている点はあるのではないかと思うがどうか」、「地元同意について同意した議員や首長に事故が起きた時に責任を問える方法はないか」などといった意見が出され、原子力市民委員会のメンバーが応答しました。

■口頭での意見発表された方・・・7名

■提出いただいた『ご意見・ご質問用紙』『アンケート用紙』の数・・・40枚

(一人の方がそれぞれ『ご意見・ご質問用紙』『アンケート用紙』を提出したものを含む)

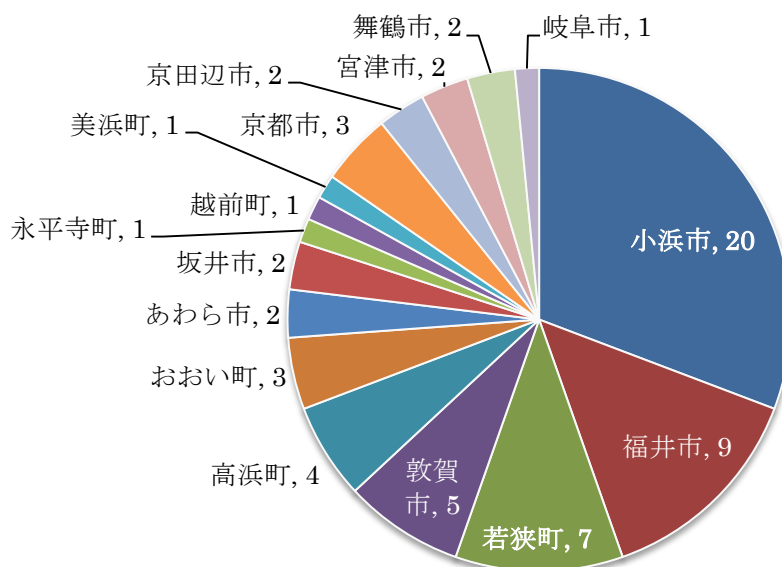
■事前に e-mail にてお送りいただいたご意見の数・・・2枚



また、報道関係者が多く来場していたため、自主的公聴会の閉会后、報道関係者向けに記者会見を開催し、原子力市民委員会としての高浜原発再稼働に関する現状認識や今後の活動方針などについての説明を行いました。

■当日の参加者：市民約70名、報道関係者約15名

小浜市	20
福井市	9
若狭町	7
敦賀市	5
高浜町	4
おおい町	3
あわら市	2
坂井市	2
永平寺町	1
越前町	1
美浜町	1
京都市	3
京田辺市	2
宮津市	2
舞鶴市	2
岐阜市	1
計	64



(参加者の住所は受付記録による。住所を確認できなかった参加者を除く。)

# 「高浜原発再稼働についての自主的公聴会 in 福井県小浜市」 当日寄せられたご意見

まとめ：原子力市民委員会事務局

## ・口頭でいただいたご意見（要約）

- 1) なぜ自治体が避難計画を義務づけられるのか。台風や風災害、土砂災害であれば、自治体として、住民の安全を守る責任があるのでやらなければいけない。しかし、原発は、それ以外の発電方法がある。原発で利益を得る事業者が避難計画を策定し、住民がそれを評価して、運転の可否を判断させて欲しい。

岐阜県が、敦賀原発で福島第一原発と同程度の事故が起きた際の放射能拡散シミュレーションを行った。現実にある日時・地形などを考慮している。その結果、一番影響があるシミュレーションでは、年間 20mSv 以上の地域が岐阜県に膨大に広がって、80 万人ぐらいの人たちが避難しなければならない地域になる。それなのに、30km 圏の UPZ でいいのか。そうした現実を踏まえた上で政府は対応をするべきだと思う。

- 2) 地元や周辺の自治体、福井県内の自治体、商工会などの業者の方たち、影響範囲にある一般住民が、なぜ再稼働にきっぱりと反対しきれないか。その最大のネックになっているのが、地元の原発依存の経済や雇用関係に起因している。『脱原子力政策大綱』には、立地自治体の自立支援の項目が 1 頁弱しか述べられていない。方策の一つとして、国会議員の原発ゼロの会の「廃炉促進二法案骨子案」を言及しているが、ぜひゼロの会などとも連携して、短期・中期・長期の実効性のある提言を、地元自治体や立地県に対して、経済的な側面から行って欲しい。『脱原子力政策大綱』の中には、非常の素晴らしい但し書きがある。「ただし、自治体に補助金を与えるだけでは、かえって自立的な発展を阻害する場合もある。あくまで自立的産業の促進、人材育成、地域再生の仕組み作り等を適切に促進し、地域の自立的発展を促すものでなければならない」。この通りだと思う。地元でも自戒の意味を込めてやっていきたい。

一方で、福井県には南北問題もある。80 万人の県民のうち、65 万人が北部。南部が若狭だ。そうしたところにしわ寄せされて、そのことが原発を招いてしまった。

また、若狭の原発群は、関西の二府四県の大都市圏にばかり電気を送ってきている。関西のみならずとも、若狭の歴史的な経緯と、今直面している経済的困難をどう救えばいいかということ、共に考えていただきたい。

- 3) 今、電力は余っている。原発の電気は安くない。しかも、安全性ということでも、ヨーロッパ基準からすると程遠い。我々の現場においては、賛成か反対かということで対立・分断させられていて苦しめられている。そういう中で、なぜ再稼働という動きになるか。その根っこの部分の膿をはっきりさせて、手術をしていくということが必要だ。

前の政権のときに、原発ゼロの閣議決定をしようとしたときに、それができなかった。その理由について、原発という言葉を使っているが、実際は、発電施設ではないということを受け止める必要がある。国際的な動きの中で日本の動きが決定されているということをはっきりさせなくてはならない。『脱原子力政策大綱』の中で、日米原子力協定ということに触れている。2018 年に改訂になるが、それに向けて、どういう提案をして、どういう動きをしていくべきかをはっきりさせていかなくてはならないと思っている。

- 4) 常々、原子力の問題を考える際に、茨城県の JCO の臨界事故の総括がまだ全然できていないのではないかと考えている。原子力、とくに放射能が、いかに人間にとって制御できないのかということを考えている。

経済的側面からすると、総括原価方式が非常に問題があるシステムなのではないかと考えている。電力会社に認められている総括原価方式は、過剰投資に対するインセンティブになるのではないかと。アヴァーチ・ジョンソン効果とか X 非効率の問題とか、いろいろな方面で指摘されているところは、私もその通りだと思っている。原発が過剰投資の一環であることを踏まえると、総括原価方式の廃止という方策が、一つの手段になるのではないかとと思うが、どうだろうか。

- 5) 今現在、原子力発電がストップしているが、電力供給が止まるようなことはない。ということは、原発は必要ではないと思っている。日本はそれなりに、なければならないようにやっていくとか、節電

をすとかいったことができるはずだ。

大飯・高浜・美浜の各発電所を見学したことがあるが、もし事故が起きたらどうなるかということ、稼働するときにみなさん方がよく見て、もっと世論を形成していくことが必要なのではないかと思っている。

- 6) 小泉元総理は、フィンランドの核のゴミの処分場となるオンカロを視察した。核のゴミを処理する技術は確立されていない。小泉元総理は以前は原発推進派だったが、これでは原発を動かしている間は核のゴミがたまるばかりである、だから今は最大のチャンスで、即刻原発を廃止するべきだと提唱した。そして、細川さんと二人三脚で頑張っている。

核のゴミというと、使用済核燃料もあるが、どのようなものが溜まって、どういうものがゴミになるかということを知りやすく説明していただけるとよいと思う。

- 7) 地元同意が5月とか6月とか言われている。その前に、大結集して、再稼働を認めないような動きをしたいと思っている。なんとしても高浜3・4号機を止めるために、福井だけでなく、全国の仲間呼びかけた大集会を行いたいと思っている。どうしたら大きな集会を打って、意志を表すことができるか、よい知恵をいただきたい。

## ・意見票・アンケート用紙にていただいたご意見

(事前に e-mail にていただいたご意見 2 件を含む。順不同。)

### 主に再稼働の是非に関するもの

- こんな基本的な事すら、確認できていない経済、技術、避難計画すべてにおいて中途半端、付け焼き刃な企業側、国（行政）の対策にあきれている。万全をもってきちんと対応策をほどこした上での再稼働検討であるべき。
- 今の命を大切にしない国、県、電力の元では絶対に反対。
- 3.11 後、関東から京都に子供を避難させた身としても反対しております。
- 絶対反対
- 再稼働には反対している。
- MOX 燃料を使った危険な原発を動かすのは命に対して重大な危機だと思っています。電気発電以外の目的をもった（プルトニウム確保）再稼働であれば尚更の事、止めるべきです。再稼働には反対です。
- プルトニウム！！事故ったら北半球の生物、環境全滅します。5km とか 10km とか 100km とか関係ない。福井地裁の判決が全て。圧力に負ける県と町にはまかせられません。高浜波力オーガニック発電所へ。
- 若狭町に住んでいますが、原発のある美浜や大飯、高浜にはさまれて、こわいことだと思っています。福井県は知事をはじめとして、再稼働なんてほんとにどんなことなのかわかっているのかと思います。安全だったらという言葉はもう信用できません。
- フクシマの汚染水はどうなっているのか。国民にしっかりと伝えられないと思います。この間、私はセシウムだけでなく、いろんな放射性物質で汚染されていること、特にトリチウムは事故前から日本国内全原発で流されてきたと知りました。プルトニウムは汚染水にどれだけ入っているかも知られていません。そんな中で MOX 燃料を使う高浜原発再稼働は不安で私は反対します。
- 大反対です。
- 高浜原発再稼働に反対です。原発自体の危険はもちろん避難計画も成し得ていない。（複合災害・原発震災ではとても安全に逃げられません。）
- 大反対です。危険で処分できないゴミが残る。この理由だけでも再稼働は認められません。事故が否定できないかぎり再稼働すべきではないです。
- 原発自体に反対。MOX 燃料を使うので危険。電気の為に乳幼児にヨウ素剤を準備してまでしなければならない原発はいらない。被曝労働者（ウラン鉱、運搬、原発）。

- 原発0で、夏も冬ものりこえられました。再稼働なしのままゆきましよう。MOX燃料のこわさははかりしれません。ふるさとと子どもの未来のため再稼働はあり得ません。
- 再稼働はぜったいにしないでほしい。若狭に住む者として、子や孫が安心して生活し、自分たちの生をまっとうできる地としたいと思っている。
- 規制基準がこれほど大甘な状況で高浜原発再稼働は反対です。現在の化学や事業者の力では原発に何かあった場合、それを制御することは不可能です。又、使用済核燃料の処分方法が無い等、原発には、多くの大きな問題が内在する以上、全ての原発の再稼働に反対です。
- 福井県民書名を提出する際に、会の福井県世話人として「再稼働は人倫に反する」という趣旨の諫言書を提出する予定です。
- 絶対に動かすべきでない。
- 高浜原発再稼働に反対します。福島第一原発事故がもたらした甚大な放射能汚染といまだに放射性物質の放出が続き、汚染水の増加と海洋への漏出が止められない実態をみれば、原発は事故原因の検証もできないコントロール不能な装置であることが分かります。製造者自ら手に負えない装置となる<核>は、本質的に、人間存在を脅かすものです。誰もが～人間のみならず、全ての生き物が～穏やかに、命を全うする権利があります。私たち人間は自然をコントロールできず、核もコントロールできないのですから、地震や津波、火山噴火等による災害で全壊しても建物・装置の被害ですむものだけを利用すべきです。動植物に放射能汚染をもたらす事故を防げない原発は利用してはいけない装置です。動かしてはいけない装置です。原発がなくても電力は足りている現状で、再稼働の必要性はどの原発にもありません。経産省の電源構成将来案では、原発が15%～25%となるようで、とんでもないことです。原子力温存＝核技術温存の考えを転換させるべく、原子力市民委員会の発言力を強めていただきたいと思います。

### 主に地元同意や説明会・公聴会の問題に関するもの

- 住民の合意を、ていねいにはかるべきだと思う。そのプロセスを明示し、国県のやっていることの比較を住民に示すと良いのではないか。住民へのアンケート企画もぜひやりたいですね。
- 地元合意について同意した議員や首長に賛成して事故が起きた時に責任を問えることができる何かよい方法はないでしょうか。
- 昨年、滋賀県内でメガソーラーの建設の許可をした際に、仲間が敦賀・美浜原発等で防寒の作業に従事した話を聞いた。既にH26 9/現在で「稼働」の方向に行政が動いている事が窺われる。危険である。何としても再稼働を許さず、反対の声を強めねばならない。行政の指針など何も当てにならず、自力で活路を探せば、事業県外移動しか方法がないのか…？
- 説明会が開かれないのはおかしい。
- 国県が再稼働について少なくとも10回くらいのていねいな公聴会が必要。住民の理解の上での、合意形成を推進する人たちは無視している。安全神話は、今なお動きつづけている。安全に関する理解を得るために国県が努力するように活動したい。
- かなり難しい注文ですが、立地地元でも、このような公聴会が開かれることを望みます。
- 地震に対する安全性がすごく心配です。この分野での数回にわたる公聴会をやるべきです。国県はもうどうヤル気はないと思いますので、原子力市民委員会で主催していただければと願っています。

### 主に原発立地・周辺自治体の状況に関するもの

- 再稼働へ向けて地元自治体、民間業者、住民がきっぱりと反対できない最大のネックは、原発依存の経済・雇用問題である。(原発マネー・ファシズム…)
- 報告書のP.200「立地自治体の自立支援」に方策が記述されているが、その他の方策も検討されているか？
- 地元で「経済がダメになる」ということは、商売・仕事がやっつけなくなる(特にサービス業)

ということです。いまの消費税増税、アベノミクスの影響も小浜市では「大飯原発が止まっているから」と結び付ける人もおられます。それに私は明確に答えることができません。

- 経済について、全般的な話でしたが、立地地域の具体的な話を進めていくことが必要です。
- 福島県民のひとりから「あなた方には特別な支援は要りません。原発再稼働をしない事です。ただ、それだけです。」と言われました。
- 規制庁の再稼働許可基準の甘さと過酷事故に対する対処する管理システムや防災・避難計画が不十分である事、それにもかかわらず、認可する体質（組織）の危うさを感じます。高浜住民への原発依存の経済や雇用対策も何もない事（市民の選択するものがない事）が問題だと思っている。福島原発の現状と住民や企業の現状がもっと伝わり、原発0社会に向けた声を高める事が0に向けた計画に向かうと思っています。
- 原子力発電所による市・町の依存度の高さを考えると、大島先生が言われているように希望に満ちた社会ではないと思う。再稼働しても40年～60年その後のことも考える事が必要だと思います。「今、明日、食べていくための策を何とかしてくれ！」この考え方に依存しないような思考だと思うのです。哲演先生が言われるように、電力を送ってきた関西との別経済的なつながりを強化されるべきかと。
- 原発立地地の自立ができないと、なかなか原発0とはならないと思います。できるだけ具体的な廃炉のスケジュールや、必要な技術等を地元を示して頂けると有難いです。今のような政府で、「脱原子力政策大綱」を実現していくにはどうしたらいいのでしょうか？我々ができることがあるのでしょうか？

## 経済の問題に関するもの

- 貿易赤字が増大すれば外貨準備高が減り、インフレがひどく国民生活が大変になるのでは？
- 経済学の現象面から原子力発電の再稼働が不要であることが良く理解できた。現在、火力が主であるが、真に原子力発電が必要であれば、戦時中の電力統制のように供給がストップするのではないかと思う。今、現在、そうなっていないのは、事故で原発がストップした時、それほど必要ではない気がする。呑気な発想であるが、必要は発明の母であるように、ないなりに過ごす、節電を心掛けていくようになるという日本社会の美德がある意味残っていると思う。今が、廃炉の時期だと思う。大飯、高浜、美浜の各発電所を見学しましたが、確かに危険でしたね。稼働時に社会の現象面をよく見て「？」と思う世論形成がもっと必要だったと思う。
- むずかしい話はわからないだろうと思いつつ出席しましたが、少しはわかる場所もありました。私たちのところでは経済の問題がよく話題になります。今、原発関係で働いている人たちの仕事のことをきちんと保障することが第一だと思います。
- 「再稼働させないで！」の署名行動をしています。「電気代が上がるんじゃ、どうしてくれる」と怒鳴られることもあります。それに対する対応などを易しく話していただき、とてもよかった。中・長期的には考える大切さを再認識しました。嶺南に集中している歪み—そこに未来はない。原発をなくす。そこに未来がある。それを追及していこうと思います。

## 主に避難や避難計画の問題に関するもの

- 高額な費用を費やして整備したスピーディーを今後使わないという事に非常に怒りを感じます。3.11の時飯館村に高汚染が起きていることが示されていた。（実際には生かされなかったが）①本当にスピーディーは予測するのに問題があるのでしょうか？②本当にムダだとしたらスピーディーに高い税金を費やしたことに怒りを感じます。スピーディーについて市民委員会はどのように評価していますか？
- なぜ自治体が避難計画を義務づけられるのでしょうか。台風や河川、雷などの避難とは全く別のものです。原発で利益を得る事業者が作成し、自治体を住民が判断し運転の可否を判断すべきです。
- UPZが30キロ圏内では狭すぎます。少なくとも80キロ圏が必要です。添付は岐阜県が実際の日時の天候と放出量、地形を確認したシミュレーションです。敦賀原発から70キロ・80キロの岐阜県大垣市、岐阜市でも20mSv/年—100mSv/年となる可能性があります。日本海側の原発は

特に UPZ を 80 キロにする必要があると思います。

- 事故の際の避難のコストについて、避難する側、避難者を受け入れる側、それぞれどのくらいかかるか。そのコストは誰が支払うことになっているのか？同じように、防災訓練のコストはどうか。試算していただくとありがたいです。

## 主に新規規制基準や適合性審査に関するもの

- 嶺南まで来ていただき、ありがとうございました。原子力規制庁（委員会の審査に問題が多くあることはよく分かりました。一方で、規制庁も改善をしている点はあるのではないかと思います。今後もきちんと規制がなされていくために、批判ばかりでなく、評価することもした方がいいのではないかと考えます。原子力市民委員会として、批判と評価、両方していく意向はありますでしょうか？
- 今日のタクシーで高浜原発を見に行ったところ、運転手さんから立地しているのはカルデラの跡で火山が隣接しているときいたのですが本当でしょうか。
- 規制委員会はコアキャッチャーと同程度の設備を事業者に求めているから大丈夫と小浜で言っていたのですが、とても過酷事故のスプレイリングではそのかわりとは思えない。素人でも分かるようなその場しのぎの規制で、過酷事故対策シナリオとしているような規制委員会の存在は福島事故以前よりヒドイと思う。
- 高浜原発の再稼働は認められません。国・規制委員会は福島第一の事故原因の究明と遅延している汚染水対策に全力を挙げるべきです。規制委員会の審査は、再稼働を前提に、現存の施設に可能な手直しをすることの評価をしたにすぎません。シビアアクシデントが発生した時に熔融核燃料を受け取るコアキャッチャーの設置を義務づけるなど諸外国で規制している手段さえ命じていません。田中委員長は「この審査書が安全を保障するもので無い」と言い、首相はじめ高官は規制委員会は安全としたと責任回避している。福井県は原発が林立している、どこかで放射漏れ事故が起こった場合に近傍の原発が基準書にかかれた対策が実行できる保証はない。しかも、地域住民の避難対策、琵琶湖を控えた京阪神の上水に対する安全策はなんら示されていない。こんな状況での再稼働はあり得ない。地域経済には将来性のある自然エネルギー開発を優遇すべきである。

## その他原子力問題に関するもの

- もともと原発を立地する際、原発を何年で廃炉にするという取決めがあったか？確か、30年ということであったと思うのですが…。事業者は一応は廃炉の年数を考慮に入れて、積立をしていたのではないかと。もしそうであるなら、どういう理由で、どういう課程を経て、40年という数字が出て来ているのか？又、それによって炉は、耐えることができるのか？
- 廃炉に必要な技術等は、現在、日本で確立されているのか？もしある程度確立されているのなら、具体的に立地地元に必要な技術や産業について、アドバイスしていく必要があるのでは。
- 省エネ等で CO2 排出は変えられないと云うが、少なくとも化石燃料の消化分の差があるのでは？
- 3月11日に仮処分の第2回審尋が福井地裁であります。裁判所の決定がこの国の原発の未来を握っているとも言えます。私は申立人としてこの裁判の決定にかけたいと思っています。
- この説明の内容が参考になりました。「安全保障の重要性」の主張が幅を利かし始めているようですが、私見では原発のような大規模施設ではなく地域分散型エネルギー体制が「安全保障上」強力であり、最も有効だと思います。
- 原発の必要性を全く感じません。檀家4軒の小寺院ゆえ、アルバイトの副業を多く経験していますが、関係する企業の操業の為に昼夜過度の電力消費が為され、悪循環が止まぬ現状に憂慮しています。ISO 云々と説く以前に自社から先ず態勢を変えよよ意見したい処ですが、労働者の弱さもあり叶いません。現状休業中の原発を様々な憶測抜きで「廃炉」の方向に転換し、雇用を増やし、起業も支援し廃炉ビジネスの発展を望むところです。アルバイトに解体作業があれば喜んで応募しますが、国全体が「現状維持」を放棄し「原発絶滅」の声を挙げねば意味がない。微力乍ら、電気に依存しないつつましい生活を続けていくしかありませんかね～。



- 日米原子力協定について学ぶ必要があると考えていました。本日、吉岡さんから言及がありました。
- 「原発ゼロ社会への道」P.120 放射性廃棄物について。国民的議論の期間中、日本原子力機構やその他の研究機関は他の選択肢について検討を進めるべきとあります。しかし、その機関は自立した組織であることが前提です。前記の組織は結論ありきの組織です。さらに、研究する場所はどこにあるのでしょうか。岐阜県瑞浪の地下研は20年の約束で1996年から高レベル処分研究をしています。しかし、現実には1986年から高レベル処分研究を行い、地下研建設の予備研究を9年間、住民に黙ってだまして実施していました。岐阜県の住民も岐阜県も2019年度までには地下研究をやめるよう強く求めています。原子力市民委員会はどこで誰がどのように研究するのかも含めて、過去の経緯も踏まえて岐阜県民や岐阜県の方と異なった方向をださないよう、ご検討ください。

## 原子力市民委員会や自主的公聴会についてのご意見

- 質問者の時間を制限することは会を運営する上で大切だと思います。それだけに、出席メンバーの講演も時間通りにすると良かったかなと思います。
- 政策や議会への期待は理解できるが、安倍政権が進める強権的な国家体制となった場合どうするかを考えているのでしょうか？
- 来るのに勇気がいりましたが来て本当に良かったと思っています。公聴会が福井で開かれる予定がないことを初めて知りました。
- 難しいと思いますが、再稼働に賛成あるいは反対を表明できない地元の方々の声、気持ちをおうかがいできればと感じました。
- 様々な角度から議論があつて、勉強になりました。
- 非常に有意義で触発された。危機意識を強めねばならない。福井県が最もゆるい態勢であることを自分も度々痛感しては、周囲の人と対話からも広めてゆきたい。
- 本日はお越しいただき、ありがとうございました。脱原発の方々でも、立地地域に足を運び、立地地域の現状を知ろうとする方は少ないので、まずはお礼申し上げます。
- 発言者の話が長すぎるが多かった。タイムマネジメントは公聴会の基本だと思う。
- 避難計画、地域経済、アメリカとの関係、料金設定においての特殊性、廃棄物問題。いろんな意見と回答が聞けて良かったです。これをきちんと広報し、地元市民へ伝えてほしい！！
- このような場を数多く開いていただき、自治体職員や議員に情報提供することが大切だと思います。
- 限定された地域の問題としてではなく、利害関係を抜きにした問題点として広く考える機会としての発展性をもってほしいと思う。
- 本来なら公的に実施すべき本会に感謝している。また貴会の存在が県民に周知していないのではないか。
- 厳しい目で見ると、良い活動をされているし、内容もすばらしいのですが、同じ顔ぶれである事が残念です。福島事故は終わったかの様にジャーナリストも発信しないようになり、人々の生活も遠い事のように受けとめていると感じる、この頃です。どう広げるかが大きな課題と思います。又、小浜で開催して下さった事に心より感謝します。
- 原発のコスト、高浜原発の技術的問題がとてもわかりやすく勉強になりました。避難についてとても具体的でわかりやすかったです。高浜 MOX 燃料の持っていき場がないというエネ庁の回答を教えていただきました。
- このような場を数多く開いていただき、自治体職員や議員に情報提供することが大切だと思います。公聴会を開いていただいて感謝しています。中畠さんがおっしゃったように、立地自治体の現状はそこに住んでみないとわからないことばかり…。敦賀で開催したら市民は何人くるか…多分少ないだろう…。
- 各講師の先生の話はわかりやすかったです。地元の哲演さんの話と地元支援の方法についてさら

に実効が上る方向へ行ってほしい。

- 私には「この会に参加してお話を聞く」ことくらいができることの最大です。(何もできない…) いろいろ活動して下さる方々、ほんとうにありがとうございます。心から敬意を表します。
- 科学的に市民の立場に立ってくださる団体があることは希望です。ありがとうございます。
- 上記の理由で、中嶋様等のお話が身にしみました。今後の原発ゼロ行程プロジェクトに大変興味があります。そうした感想を持ちました。今日は貴重な会をありがとうございました。
- 幅広くご活躍ください。本日のような勉強会を福井で続けていただけるとありがたいです。
- 公聴会に度々行って広く市民に知らしめて欲しい
- 以前から、貴委員会の動きに関心をもっていました。福島以外の立地地域の問題への取組がなかったもので、連絡を取ることもしていませんでした。他にも、東京や京都の脱原発の方々にも再さん働きかけて来ましたが、親身に考えて動いてくれる方はなかなかありませんでした。地元は地元で、自立のための動きはかなり出て来ています。是非、具体的な支援をしてほしいです。それがあって初めて地元民は脱原発派の方々の意見に耳をかたむけると思います。
- 政府や事業者を批判するだけでなく、過激な反原発運動団体をいさめるような取り組みをしてほしい。「公論形成の場を」というが、不規則発言をくり返したり、暴れてみたりして会の進行をじゃまするようなことが薩摩川内市でもあった。大飯再稼働の時もそうだったが、あれでは行政も公聴会を開こうと思わないだろうし、一般市民も怖くて参加できない。反原発ありきの会では、人々もうんざりして集まらない。まず話し合う姿勢を、原発推進も反対もつくるべきだと思う。そういったことも市民委で話し合ってほしい。
- 今日は時間が短かくまとめられていて、他方面の話を聴くことができ良かったです。しかし、全方面まだ聞き足りない知りたい部分もあり、ゆっくりと時間をとった会議がこれからも開催される事を望みます。ありがとうございました。
- ガンガンやってください！！
- 座長がお話し下さったレポートをお待ちしております。
- 原発立地若狭で公聴会を開いていただきありがとうございます。
- いつも資料や情報に感謝しています。
- 1月26日の越前市の勉強会（Youtube）をみてから来ました。参考になります。この委員会の存在自体、まだ知られていないと思います。何かと、皆様に知ってほしいものです。
- 御活動、ありがとうございます。